東日本旅客鉄道労働組合
東京都渋谷区代々木２丁目２番６号
ＪＲ新宿ビル13Ｆ　〒151-8512
Tel. 03－3375-5740（代）
発行責任者　大 熊 勝 明

ＪＲ東労組 本部ＯＢ会 ニュース

№ 166　2012 年 1 月　発行

震災に負けず、社会保障の充実と脱原発の社会をつくろう！

明けましておめでとうございます

ＪＲ東労組ＯＢ会
会長 大熊勝明

全国のＯＢ会員・エルダー会員の皆様に新年にあたりご挨拶申し上げます。

とりわけ大震災を機に生活が一変し、仮設住宅や避難先などで新しい年を迎えるなど、不自由な生活環境にある被災者の会員の皆様には、あらためてお見舞い申し上げます。

私たちＯＢ会を取り巻く社会情勢は、たいへん厳しい状況を迎えています。少子高齢化の進展と国家財政の危機を背景に、社会保障制度は崩壊状態に至っており、年金・医療・介護・福祉のどれを見ても高齢者には負担を強いる政策が目白押しです。

高齢者には厳しい攻撃が…

私たち高齢者にも生活があります。年金支給の減額、病院の窓口負担の一〇〇円上乗せ、70歳～75歳未満の高齢者の2割負担など、法改正が俎上に上っており、これらの攻撃をハネのけるためには、高齢者自身が反対の声を上げ、闘いのうねりをつくり出していく以外に道はありません。仲間や組織を信じ立ち止まらず、前に向かって、共に歩き続けようではありませんか。

人災は防げる 原発を止めることだ！

3・11東日本大震災は、終戦直後の市街地の焼け野原を思い出させました。また死亡・行方不明者が二万人にも及び、まさに未曾有の自然災害でした。

この自然災害は、日本列島がプレートのぶつかり合う真上にあり、大地震や大津波は何十年か何百年目かには必ず起き、その被害をどれだけ「減らすか」しか防ぐ方法はありません。

しかし東京電力の福島第一原発事故は、東京電力と電力業界、政府・財界、御用学者の利益優先主義と安全軽視の体質が招いた人災事故でした。多くの警鐘を鳴らした人の声を無視した結果でした。福島第一原発事故による放射能汚染の被害は、福島から東北・関東一円の地上・海中へと広がり、特に子供たちの未来に暗い影を落とし、大きな不安を与えています。そして今も被害の拡大が続いています。

25年前に起きたチェルノヴイリ原発事故の現状を見ても、今の世界の原発事故の科学技術では原子炉の解体も出来ないのが現実です。これ以上の放射能の苦しみから逃れるためには直ちに原発を停止する以外に道はありません。

私たちＪＲ東労組ＯＢ会は、「東日本大震災」発生以降、被災されたＯＢ会員の仲間への支援活動を独自に取り組みました。多くのＯＢ会員から暖かい支援の手が差し伸べられたことに、この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

２０１１年度の一文字漢字が「絆」となりましたが、まさに「絆」を一層大切にし、今後も引き続き被災されたＯＢ会の仲間の支援を続けてまいります。

英知を出し合い、行動しよう！

２０１２年は、私たちＯＢ会員を取り巻く社会環境は厳しい年となることが予想されます。昨年末の臨時国会では、「社会保障と税の一体改革」の財源として消費税の増税が語られています。さらに年金の減額や病院窓口での負担増が民主党・野田政権下で進められようとしています。高齢者の生活が脅かされようとしています。

戦後、永きにわたる自民党政権下で作られた膨大な負の遺産を引き継いだとは言え、民主党が今ここでしっかりしてもらう為にも、生活苦にあえぐ民衆の声をＯＢがしっかりと発信しなければなりません。欺瞞の政治を暴き、暮らしやすい社会の創造に向けて、あらゆる英知を出し合い行動に移さなければなりません。

一昨年、私たちが国会に送った田城郁参議院議員が、一年生議員としては稀に見る速さで、参議院本会議の質問に立ち、堂々と発言・活躍しています。私たちＯＢ会は、田城議員をしっかり支え、田城議員の国会活動と連携して、人間尊重を基底に据えた社会、自然と調和する社会を築くため、この一年を闘い抜きたいと思っています。

美世志会と共に

ＯＢ会員には、「浦和電車区事件」の梁次邦夫さんと大澗慶逸さんの２名がおります。現職に戻り再びハンドルを持つことはできませんが、最高裁では美世志会全員の無罪判決と職場復帰を勝ち取るために、残された時間を最後まで悔いのない闘いを行いましょう。

２０１２年のＯＢ会員の皆さんのご健勝を願い、年頭の挨拶とさせていただきます。

迎春

本年もよろしくお願い致します。

顧　　問　小澤康秀
会　　長　大熊勝明
副 会 長　佐々木源幸
副 会 長　福島国男
副 会 長　本田祥章
副 会 長　田中冨士男
事 務 局 長　伊藤義男
事務局次長　石井宏武
事務局次長　笹芳成明
ＯＢ担当　君塚敏男

二〇一二年　元旦

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

参議院議員　田城　郁

今年の日本は、長引く不況と悪化した雇用状況、東日本大震災からの復旧復興、福島第一原発の収束、ＴＰＰ問題など、私達の将来を左右する大きな課題に一つひとつ向き合い、日本の将来をしっかりと見据えて、進むべき道を定めていく年になると考えています。

そして何よりも気になるのは、ＯＢ会員の皆様の生活に直結する年金・医療・介護などに関わる問題が「社会保障と税の一体改革」という形で議論され、消費税増税や年金の「特例水準」の解消というテーマが国会議論の俎上に上ることです。

私自身、これまで以上にＪＲ東労組のＯＢ会員の皆様の負託に応えられるよう、一人ひとりの声に真摯に耳を傾け、平和・人権・民主主義が確立した社会を目指し精進を重ねる所存です。

ＪＲ東労組組織内議員として、この一年の抱負を述べさせていただきます。具体的には、東日本大震災で大きな被害をうけた鉄道の復旧と、

今年の抱負

参院本会議場で発言する田城 郁議員

クの重要性が国会でも再認識されました。

原発事故では未だに多くの組合員やＯＢ会員が避難生活を余儀なくされています。ＯＢ会員の皆さんや地域の皆さんが一刻も早く安心して仕事と生活ができる環境をつくることが不可欠であり、原発事故対応の方針も、もっとスピード感をもって取り組まなければなりません。

そのためには、新たに設置される復興庁が、被災者・被害者の要望に対して有効かつスピーディに機能するようにしなければならないと考えています。

そして「えん罪のない社会」を目指して、「取り調べの可視化」や「判検交流の禁止」など、えん罪を生みだす要因を無くし、えん罪で苦しむ人がいなくなるように皆さんと共に考え、行動してまいります。

最後に、高齢者の年金や医療・介護等の問題も大きな山場を向かえます。先輩・高齢者のＯＢの皆さんの深刻な問題についても、退職者連合やＯＢ会の皆様としっかりと連携をとり合って、問題解決に向けて努力する決意です。

まだまだ明るい話題の少ない日本ですが、新しい日本の将来に向けて、人と人が、家族が、地域が深い絆でつながり、本当に人間らしい社会生活を築かなくてはなりません。そのために、今年もＯＢ会員の皆さんとしっかりと歩んでいきます。

どうぞ今年も宜しくお願い致します。

去る11月20日、西関東ブロックの横

秋空の下で 三地本交流会を開催！

西関東ブロックの三地本交流会が、八王子・大宮で開催！

横浜・八王子・大宮の仲間が集う

八王子地本ＯＢ会　事務局長　沼波修司

横浜、大宮、八王子地本ＯＢ会の準備で、立川市の昭和記念公園で、午前11時に6名のＯＢ会員・来賓が集い、秋の深まる公園内の紅葉狩りと散策に出かけました。

12時30分、八王子地本・片山ＯＢ会長の歓迎の挨拶で交流会が始まり、本部ＯＢ会・本田副会長、横浜地本ＯＢ会・神保会長、大宮地本ＯＢ会・真壁会長、八王子地本・沼澤副委員長、自然と人間社・加藤相談役からそれぞれに挨拶を受けました。

ＪＲ東日本会社が「ローカルルールの是正」と称してＪＲ東労組の職場活動を規制している現状は、平成版「マル生」攻撃そのものであり、会社の内部文書によって、明らかになったことが語られ、参加したＯＢ会員から怒りの声が上がりました。国鉄改革を担った者として許すことの出来ない会社の攻撃と言わなければなりません。

挨拶の後、バーベキューによる交流に入りました。八王子地本「自然農園」で作られた里芋の塩ゆでに舌鼓を打ち、西関東ブロック三地本のＯＢ会員が、お互いの話に耳を傾けながらの交流は、ビールも酒も進み、有意義な時間を過ごしました。

○○万人署名」に取り物」として、原発のない り組みをすることを た。

大宮地本・大宮総合車両センター支部 ＯＢ会　青鹿隆秀

安全とゆとりを求め職場と運輸サービスを語ろう

私のエルダー職場 紹介します

私の職場は運輸サービス（略称JRTS）小山事業所で、隣接する小山車両センター内にあります。社員数は約100名規模。雇用形態は正社員（26）・契約社員（28）・パート（約20）・JRからの出向（ジェッツ）者（24）とさまざまです。作業内容は、車内清掃・車輪転削・構内運転です。

検修作業は全部で7仕業（7徹）あり、本体が4仕業、か3仕業を受け持っています。当然にも共同作業な偽装請負の温床にもなっています。偽装請負はＪＲ東労組からの指摘もあり対策を講じましたが、アリバイ的でしかなく「糠に釘」の状態です。特にダイヤが乱れた時には、偽装どころか何でも有りで、コンプライアンスの言葉は死語になっています。

いま会社は検修職場の「外注化の拡大」を提案してきています。表向きは「エルダー社員の雇用確保」になっていますが、内容は若年出向を1000人規模を考えているのです。その結果、作業の殆どが外注化されることになります。協力会社＝下請会社で本体並みの安全・ゆとりを考えた作業ダイヤを組むことなど出来ないことは火を見るより明らかです。

なぜならば、外注化は経費削減を目的としており、下請会社に時間と経費をかけることなどは絶対に無理なことだからです。結果として安全・ゆとりがないがしろにされるのです。これらを踏まえれば、エルダー組合員の課題は、今日まで外注化によって生み出された問題点を明確にして、本体へフィードバックすることです。

還暦を迎えたエルダーたちは、趣味もその域に達し、完成度も高く、玄人はだの人が結構います。職場の仲間には土地柄もあり農作業好きな人が多いです。長年培われた感性と技で、野菜や果物を有機栽培で生産しています。

所得の目減り分を自給自足で補うと共に、農作業で体力の低下も防止しています。ＪＲ東労組が提唱する田畑運動や、「自然と人間」誌連載の「農のある暮らしから」（秋山豊寛氏）をこんな形で実践しています。